

博士論文の審査結果の要旨

| | | | |
|---|--|-------|------------------------------|
| 専攻 | 保健医療学専攻 | 分野 | 理学療法学分野 |
| 学籍番号 | 14S3033 | 院生氏名 | 志村圭太 |
| 通学キャンパス | 東京青山キャンパス | | |
| 論文題目 | 標高の違いと加齢変化からみた ボリビア多民族国民の身体的特徴 ー健康づくり支援のための基礎データの提示ー | | |
| 審査結果 (枠で囲む) | <input checked="" type="checkbox"/> 合格 | | <input type="checkbox"/> 不合格 |
| <p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文の内容と概略</p> <p>本研究は、ボリビア国内の標高が異なる地域に住む人々の加齢に伴う生理学的指標や体格の特徴を明らかにし、その結果を健康づくり支援のための基礎データとして提示することを目的としている。対象は、標高 2,800m 前後の渓谷地帯 2 地域と 250m 前後の 2 地域の計 4 地域で開催された健康啓発活動に自主的に参加した 589 名のボリビア人 (男性 209 名、女性 380 名、年齢 46±18 歳) である。この対象の身長、体重、血圧、SpO₂ を測定し、BMI を算出した。各測定項目に対し、標高 (高地・低地) と年齢階級 (10 歳毎の 6 年齢階級) を要因とした二元配置分散分析による比較・検討を行った。分析の結果、標高の主効果が血圧値、SpO₂、身長に認められ、高地群が有意に低い値を示した。また、年齢階級の主効果がすべての項目に認められた。BMI は両群ともに 20 歳群よりも 40、50 歳群が有意に高値で、その平均値は 29 台を示した。この結果、ボリビア人の加齢に伴う身体的特徴および居住地域の標高によって生じる相違が明らかとなり、健康障害の発生予防に肥満対策が重要であることが示唆された。</p> <p>ボリビアは、国土の特徴から各地域に適合した健康障害予防策の計画・実践が必要であるにもかかわらず、地域住民の身体機能特性についてのデータの信頼性が低い現状にある。本研究の新規性は、そうしたボリビアにおける健康政策の立案に対して有益な情報を提供するものとして高く評価できる。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>平成 28 年 12 月 14 日、1 回目の審査会を行い、ボリビアの保険政策の現状、地域の区分、この結果と現状を踏まえたうえでの対策の具体性、タイトルと考察の整合性、データの表記方法等の指摘が行われ、修正、加筆が求められた。12 月 23 日、修正論文が提出され、審査員で適切に修正されていることを確認した。口頭試問においても適切な応答であり、以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (保健医療学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p> | | | |
| 論文審査担当者 | 主 査 | 谷 浩明 | |
| | 副 査 | 丸山 仁司 | |
| | 副 査 | 岡村世里奈 | |